

夕張市地域公共交通協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

夕張市は、北海道のほぼ中央、空知地方の南部に位置し、東西約25キロ、南北約35キロ、面積約760平方キロメートル、人口約8,400名の街であり、面積の約9割を森林が占めている。夕張市内を運行する路線バスは、当市の人口減少を主因と思われる利用者数減、それとあいまっての運行事業者の乗務員数減もあり、運行路線数、運行本数の減少が続き、各路線とも採算は厳しい状況である。

当市の路線バスは、「夕張市まちづくりマスタープラン」に都市骨格軸として位置づけた南北軸（紅葉山地区～本町地区）を幹として、南北軸上にない他の地区（郊外地区）とを結ぶ路線が枝となる体系となっているが、フィーダー部となる、清水沢～南部間においてデマンド交通の実証運行を行い、地域住民の移動手段確保の検証を行ってきた。その結果、主として自家用車を自ら運転できない高齢者を中心とした一定の利用があったことから、同区間におけるデマンド交通本格運行を行い、生活利便性の維持を図ることで地域のニーズに応える。

生活交通確保維持改善計画の目標

運行率 30%、利用人員 180名
(平成29年4月～9月)

平成29年度事業概要

デマンド南部線

- ・運行事業者: 丸北ハイヤー有限会社
- ・区間: 南清水沢～南部
- ・運行日、便数: 毎日、3便/日 (南部行2便、南清水沢行1便)
- ・運賃: 最大410円 (同一区間を運行する路線バスと同額)

地域公共交通の現況

<鉄道>

- ・JR石勝線(滝ノ上駅、新夕張駅)
- ・JR石勝線(夕張支線)
(新夕張駅～夕張駅: 計6駅)

<路線バス・デマンド交通>

- ・夕張鉄道(株)(市内4路線)
- ・北海道中央バス(株)(市内2路線)
- ・デマンド交通(2路線) 【H29.10.1現在】

協議会開催状況

平成29年1月30日

平成28年度 第3回 夕張市地域公共交通協議会
デマンド交通実証実験結果について
南部地域のデマンド交通本格運行(案)について

平成29年6月28日

平成29年度 第2回 夕張市地域公共交通協議会分科会
平成29年度夕張市生活交通確保維持改善事業計画について

平成30年1月29日

平成29年度 第3回 夕張市地域公共交通協議会分科会
平成29年度「平成29補助年度 生活交通確保維持改善計画
(地域内フィーダー系統 確保維持計画)」に関する「地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価」について

平成29年度事業の実施状況

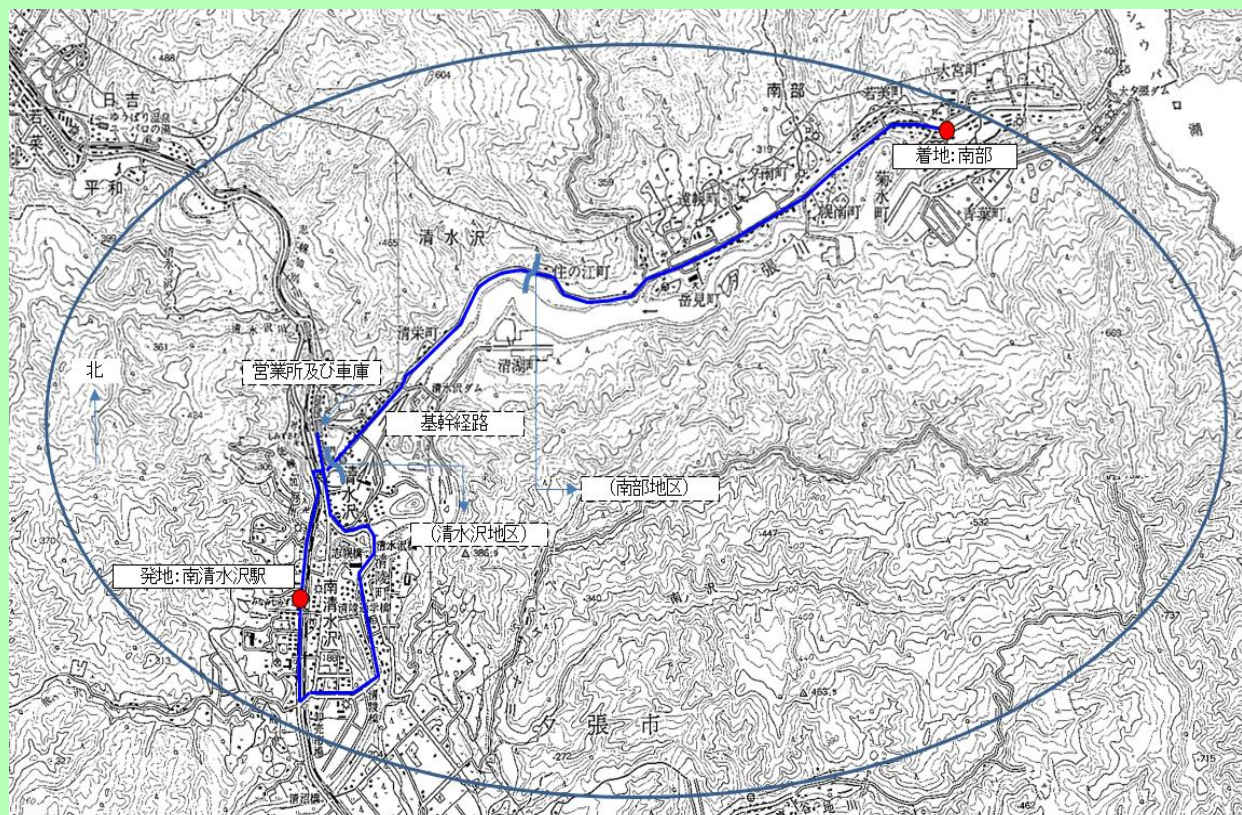
1) プロセス、創意工夫

- ・平成27・28年度に実施した実証運行時のアンケート、住民懇談会における意見等を反映。
- ・平成29年4月から本格運行実施。
- ・基幹経路を運行する路線バスと運行時刻を調整。

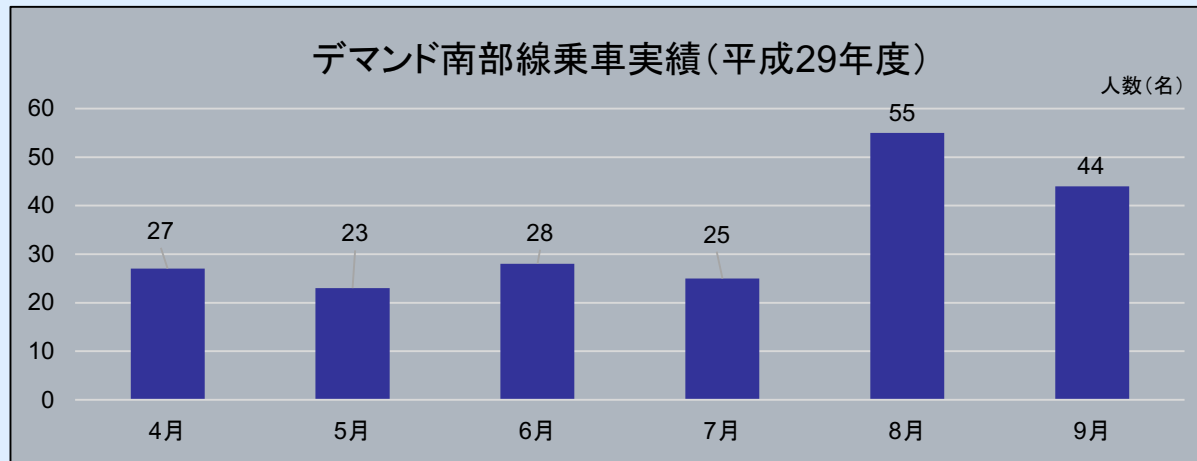
2) 運行系統

○ デマンド南部線

南清水沢～南部



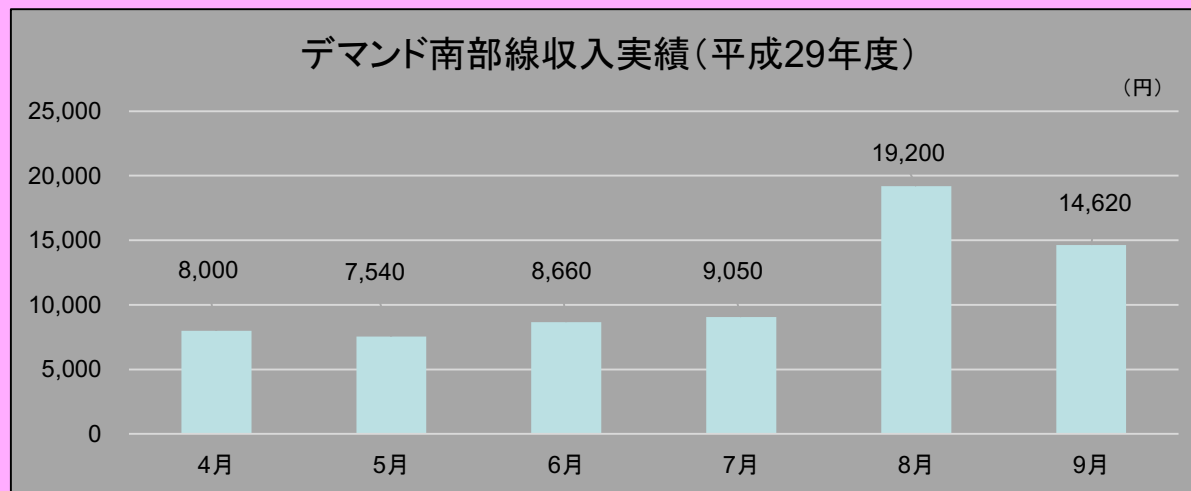
3) 利用実績



デマンド南部線は、平成29年4月運行開始のため、平成29年度実績は4月～9月の半年分となります。

合計:202名

4) 収入実績



デマンド南部線は、平成29年4月運行開始のため、平成29年度実績は4月～9月の半年分となります。

合計:67,070円

5) 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

実証運行結果を反映した計画運行回数に対し運行割合84%と目標値を上回り、利用者数は180名を目標としていたところ、202名の利用者があり、目標値を上回った。

7) 事業の今後の改善点

平成29年10月、ほぼ同一経路を運行する路線バスの廃止に伴い、利便性確保のための増便(3便/日→7便/日)を行うとともに、単独路線となったことによる運賃改定(最大410円→全線均一200円)を行った。

また、南部地区において、上記変更内容の周知と利用促進を図るため、自治会長への説明と、住民への説明会を実施している。今後も利用者ニーズの把握、また運行内容に関する情報発信の場として、実施していく。

8) 地方運輸局における二次評価結果(案)

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・実証運行結果を基に本格運行を開始し利用人員の目標値を達成したことは評価する。
- ・今後は、丁寧かつ効果的な広報・周知活動の展開に努め利用促進を図るとともに、住民・利用者ニーズを的確に把握・分析し、利便性及び効率性を向上することにより、路線バス廃止後の地域の足として持続可能な事業となることを期待する。